

武蔵野市立吉祥寺美術館 2020 年度企画展

岡田紅陽 富士望景—武蔵野から

ガイド&ワークシート

岡田 紅陽（おかだ こうよう）

- 1895 年新潟県生まれ、本名は賢治郎
- 早稲田大学在学中から写真を撮り始める
- 1923 年の関東大震災発生時に被災各地を写真で記録する
- 全国各地の国立公園を撮影している
- 岡田の写真をつかった記念切手がたくさん発行されている
- 富士山を最も愛し、生涯に撮影した富士山の写真は 40 万枚以上
- 《湖畔の春》(1935 年撮影) が旧五千円札および現千円札裏面の“逆さ富士”の絵の原案になる
- アメリカのニューヨーク近代美術館にも岡田の写真がある
- 1961 年から 1972 年（没年）まで武蔵野市吉祥寺東町に住んでいた
- 日本を代表する画家、彫刻家、作家、評論家など多数の文化人と親交があった

岡田紅陽ゆかりの美術館

岡田紅陽の仕事を知ることが
できる美術館。
富士山を目の前に体験できます！

岡田紅陽写真美術館

〒401-0511

山梨県南都留郡忍野村忍草 2838-1 四季の杜おしの公園

あなたが知っている
“富士山がみえるスポット”を教えてください！
また、武蔵野市内から富士山をみたことはありますか？

富士山をテーマにした芸術作品
(美術、音楽、文学など)を
ほかにも知っていますか？

あなたは「富士山」から
どんなこと・ものを
思いかべますか？

岡田紅陽が撮影した富士山の写真は、多くが黒白モノクロームです。
「黒白の写真といってもカラーの世界を表現するのだから、私は富士の黒白
写真については特に黒の色調に深い関心を寄せているつもりである」と岡田
は言っています。

お隣の「浜口陽三記念室」に展示している浜口陽三の銅版画も、
黒がとても印象的です。

🔍銅版画の黒と写真の黒を見くらべてみよう🔍

黒白モノクロームの写真と
カラーの写真がありますが、
受ける印象はどのようにちがいますか？
(どちらが好きですか?)

展示作品リスト 15、19、21 の写真は、
撮影地がまだ特定できていません。
どこから撮影した写真だと思いますか？
(ぜひ吉祥寺美術館に情報をお寄せください！)

展示のなかで
特に気に入った写真はありますか？
(どんなところが気に入りましたか?)

岡田紅陽の写真は、現代のデジタルカメラやスマートフォンで撮影する
写真とは違い、不要な部分の消去や画像加工などの処理は施されていません。
また、現像・プリントの工程には時間がかかり、撮ってすぐその場で
写真の出来を確認することもできませんでした。
カメラや機材も現代のものほど便利ではなく、ガラス乾板やフィルムを
たくさん持っていく必要もありました。
そのため撮影には現代以上に苦労が多く、とりわけ天候に大きく左右される
山での撮影は、体力、忍耐力、集中力を必要としました。

写真表現について詳しく知ることができるおすすめの本
勝又公仁彦・編『写真 新編 写真・技法と研究』(2019 年、藝術学舎)
東京都写真美術館・編『光と影の芸術—写真の表現と技法』(2012 年、平凡社) など

【ゼラチン・シルバー・プリント】

19 世紀末に発明された黒白写真のための印画紙のことで、ゼラチンに臭化銀などを混ぜて、
紙に塗って乾かしたものです。光に反応しやすいので、現像は暗室でおこないます。
現在も使用されている印画紙です。
ちなみに、岡田の黒白モノクロームの写真は、ガラス乾板やネガフィルムに撮影されています。

【発色現像方式印画】

カラー写真画像をつくりだす現像処理のことです。岡田の場合はカラーネガフィルム
から現像しています。

展示されている写真から 1 点選んで、
この紙の裏面に鉛筆でスケッチしてみよう
(おすすめは黒白の写真)

🍁皆さまのコメントやスケッチを美術館公式 SNS (Facebook、Twitter) でぜひ紹介させてください🍁
ご紹介 OK のかたは、この紙をアンケートボックスへお入れください。
ご希望のかたには返却いたしますので余白にご送付先をお書きください。ご紹介時に個人情報は出しません。